



TITLE:

副睪丸Adenomatoid tumorの2例

AUTHOR(S):

宮崎, 尚文; 坂本, 善郎; 川地, 義雄; 高橋, 茂喜; 小川, 由英; 北川, 龍一

CITATION:

宮崎, 尚文 ...[et al]. 副睪丸Adenomatoid tumorの2例. 泌尿器科紀要
1986, 32(4): 611-614

ISSUE DATE:

1986-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/118787>

RIGHT:

副睪丸 Adenomatoid tumor の2例

順天堂大学医学部泌尿器科学教室（主任：北川龍一教授）

宮崎 尚文・坂本 善郎
川地 義雄・高橋 茂喜
小川 由英・北川 龍一REPORT OF CASES OF ADENOMATOID TUMORS
IN THE EPIDIDYMISSNaobumi MIYAZAKI, Yoshiro SAKAMOTO, Yoshio KAWACHI,
Shigeki TAKHASHI, Yoshihide OGAWA and Ryuichi KITAGAWA*From the Department of Urology, Juntendo University School of Medicine**(Director: Prof. R. Kitagawa)*

This is a report of two cases of adenomatoid tumor on the epididymis. Both patients presented with the chief complaint of an intrascrotal mass. One patient, 56 years old, had a tumor on the left epididymis and underwent left epididymectomy. The other patient, 65 years old, had a tumor on the right epididymis and underwent resection of the tumor. Subsequently histological diagnosis confirmed an adenomatoid tumor. From the Japanese literature, 103 cases of adenomatoid tumor including the present cases were reviewed. The tumor was located on the epididymis in 83 cases with a mean age of 39.6 years and on the testicular tunica in 11 cases with a mean age of 27.5 years. These tumors originated from two sites, from the serosal lining of the genital tract and from the Müllerian remnant. The former type is called by Yasuma the Mesothelial type and the latter, the adenomatoid type. The present two cases are of the adenomatoid type, which is usually found on the tail of the epididymis in men from 30 to 50 years of age.

Key word: Male adenomatoid tumor

緒 言

副睪丸 adenomatoid tumor は比較的稀な疾患であり、発生病理学的にも議論の多い腫瘍である。今回われわれは2例の adenomatoid tumor を経験したので、本邦報告例を集計し若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

症例1

患者：56歳，男性
主訴：左陰嚢内腫瘍
既往歴：特記すべきことなし
現病歴：1980年頃より，無痛性左陰嚢内腫瘍に気付

くも放置。その後，腫瘍部に疼痛出現するも数日で消失。1982年12月15日，上記主訴にて当科初診。左副睪丸腫瘍および左精索静脈瘤と診断され，手術目的にて1983年1月12日入院した。

現症：左副睪丸頭部に硬い小指頭大の無痛性腫瘍を触知。左精索静脈瘤も確認された。理学的所見，血液検査，尿所見に異常は認められなかった。

手術所見：左副睪丸腫瘍と左精索静脈瘤の診断にて，1983年1月19日左副睪丸腫瘍摘出術を施行した。腰麻下に左陰嚢皮膚切開を加え睪丸を露出したところ，無色～淡黄色透明な陰嚢内容物が数 ml 認められた。副睪丸頭部に小豆大の硬い表面平滑な腫瘍を認め，これを副睪丸の一部とともに切除した。精索静脈瘤は陰嚢

内に軽度認められたが、内鼠径管以上での怒張は明らかでなく、怒張部のみを切除した。

組織所見：一部硝子化を伴う結合組織性基質中に充実性索状あるいは管腔形成を示す adenomatoid tumor であった (Fig. 1)。

症例 2

患者：65歳，男性

主訴：右陰囊内腫瘍

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：1980年頃より右陰囊内に拇指頭大の腫瘤に気付くも放置。1984年近医受診。手術を勧められる。同年2月15日当科受診。右副睾丸腫瘍および左精液瘤と診断され、1984年3月1日入院となる。

現症：腫瘤は無痛性、表面平滑な硬い鶏卵大であり副睾丸尾部に触知した。また、左副睾丸頭部付近にも腫瘤を触知。透光性を認め、穿刺液検鏡にて精子の存

在が認められた。理学的所見、血液、尿所見に異常は認めなかった。

手術所見：腰麻下に右陰囊皮膚切開を加え陰囊内容を露出。右副睾丸尾部に表面平滑な $3.0 \times 2.5 \times 2.0$ cm 大の腫瘍を認めた。腫瘍と睾丸との連続性は無く副睾丸に付着しており、腫瘍は副睾丸より発生したものと考えられた。これを副睾丸の一部とともに切除した (Fig. 2)。また、左副睾丸頭部に $2.0 \times 2.0 \times 1.8$ cm 大の精液瘤を認め、これも同時に切除した。

組織所見：平滑筋および結合組織より成る豊富な間質を伴い、腫瘍細胞はリンパ管様の管腔を形成している adenomatoid tumor であった (Fig. 3)。

考 察

Adenomatoid tumor は1917年坂口¹⁾が adenyoma と報告して以後種々の名称で報告されてきた

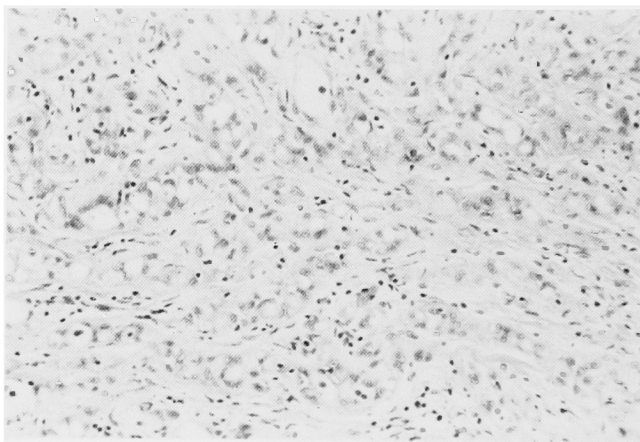


Fig. 1



Fig. 2

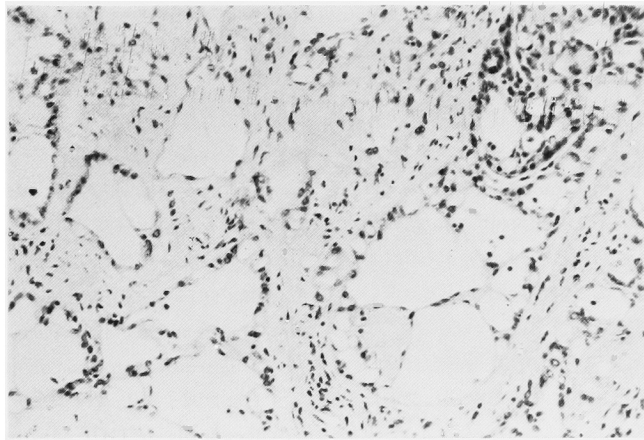


Fig. 3

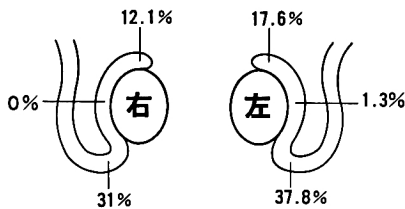
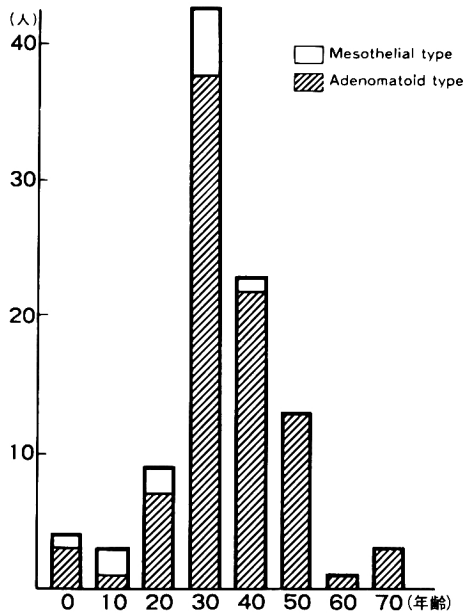


Fig. 4

Table 1



が、1945年 Golden ら²⁾により組織形態学的に特徴付けられ、adenomatoid tumor との名称が提唱され一般化した。1985年山田ら³⁾が男性 adenomatoid

tumor 100例を報告し、その後、白水ら⁴⁾の1例および自験例2例を加え、103例となる。鈴木ら⁵⁾(1983)は安間ら(1980)の報告した組織学的分類に従い、adenomatoid tumor を副睾丸に存在する Müller 管遺残組織由来の adenomatoid type と、睾丸被膜の中皮性漿膜より発生する mesothelial type に分け報告している。われわれも同様の分類法を用い検討を加えた。白水らおよび自験例2例は adenomatoid type に分類された。集計した103例のうち、tumor が精索に認められた2例と局在不明の7例を除くと、adenomatoid type 83例、mesothelial type 11例となる。

Adenomatoid type の年齢分布は1歳から74歳であり、平均年齢39.6歳であった (Table 1)。患側は左側47例、右側32例、不明4例。副睾丸における発生部位は、頭部22例、体部1例、尾部54例、不明6例 (Fig. 4)。術前診断では、副睾丸腫瘍29例、副睾丸結核17例、副睾丸炎11例、睾丸腫瘍7例、その他2例、不明24例。手術術式は副睾丸摘出術38例、腫瘍摘出術20例、除睾丸術13例、その他2例、不明17例であった。一方、mesothelial type 11例の年齢分布は1歳から45歳で、平均年齢は27.5歳であった (Table 1)。患側は左側7例、右側4例。術前診断は睾丸腫瘍3例、副睾丸腫瘍3例、副睾丸炎2例、副睾丸結核1例、不明5例であった。手術術式は除睾丸術5例、腫瘍切除1例、不明5例。

以上のように adenomatoid type は30歳代が最も多く壮年期に多発する傾向を示し mesothelial type ではこれに比し、30歳代に多いが低年齢層に集中している。患側は両方の type とでも左側に多く発生する。adenomatoid type での頭部と尾部との発生率は2.5:1と尾部に多く認められる。

以上の結果は欧米の報告と類似傾向が認められた⁶⁾. 腫瘍の大きさでは adenomatoid type は鶏卵大, 鵝卵大という記載のものもあるが, 一般に拇指頭大までの腫瘍が大多数を占める. mesothelial type では, 小指頭大から鶏卵大の大きさのことが多い.

Adenomatoid type および mesothelial type に分類, 比較したが, 近年, Adenomatoid tumor の多発, 悪性化の報告がされており⁶⁻⁸⁾, また鈴木ら⁵⁾は本邦における副睾丸腫瘍 184 例の組織分類を行なっているが, このうち21%が悪性腫瘍となっている. 術式に関しては, 腫瘍切除のみにとどまるか, 除睾丸を行なうかは, 術中迅速組織診断などにより慎重を期したい.

結 語

副睾丸, adenomatoid tumor の2例を報告し, 本邦報告例103例につき若干の考察を加えた.

文 献

- 1) 坂口 勇: 副睾丸アデノミオームに就て. 日泌尿会誌 6: 47~56, 1917
- 2) Golden A and Ash JE: Adenomatoid tumor of the genital tract. J Pathol 21: 63~79, 1945
- 3) 山田晋作: 男性アデノマイド腫瘍. 泌尿紀要 31: 153~157, 1985
- 4) 白水 幹: 副睾丸部の adenomatoid tumor の1例. 日泌尿会誌 75: 856, 1984
- 5) 鈴木守和: 副睾丸アデノマイド腫瘍の2例. 臨泌 37: 561~564, 1983
- 6) Malament M and Ries WS: Multiple adenomatoid tumors of tunica vaginalis. J Urol 92: 210~214, 1964
- 7) Reynolds Jr CL: Multiple mesotheliomas of hydrocele sac; A case report. J Urol 79: 134~137, 1958
- 8) Kasdon EJ: Malignant mesothelioma of the tunica vaginalis propria testis. Cancer 23: 1144~1150, 1969

(1985年6月20日受付)